

4 「指導と評価の計画」を立てる

単元（題材）ごとの計画を考える

授業計画を立てるとき1単位時間ごとに考えていくのではなく、単元（題材）というまとまりで考えて、目標（ねらい）を実現していくきます。なぜならば、単元（題材）によって、そのねらい（身に付けさせたい力）は異なるからです。

☆目標に準拠した評価

→ 2章-2

評価規準を考える

始めに、単元（題材）の評価規準を観点別に設定します。次に、ねらいをどのように実現していくか、生徒が学習を積み重ねていく学習の流れを考え、具体的な評価規準を設定し、単元（題材）の中に適切に配置することが大切です。

☆様々な学習活動の評価について

言語活動、観察・実験、問題解決的な学習などの学習活動を評価する際、その活動ができているかを表面的に評価するのではなく、各教科等で育成すべき能力等が身に付いているかどうかを評価しましょう。間違えやすいので、特に気をつけたい点です。

学習活動を考える

設定した目標（ねらい）を実現するための学習活動を考えます。単元（題材）全体の流れの中で、それぞれの授業がどのような位置付けにあるべきか、個々の授業のつながりを踏まえて考える必要があります。教科や単元（題材）によっては、評価規準と学習活動の配置と併せて評価の方法も同時に考えていく必要があります。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

多様な生徒の実態に応じた単元（題材）による授業構想

生徒の興味・関心を引き出す活動を展開するために、次のような内容を取り入れてみましょう。

- ①生活につながる内容
- ②経験や既習内容がいかせる内容
- ③探究心を引き出す内容
- ④驚き・発見・疑問が生まれる内容など

→ 1章-4



単元（題材）の指導と評価の計画

「単元（題材）の指導と評価の計画」を立てるということは、生徒の学びの過程をデザインすることです。

参考：「神奈川県立高等学校等 学習評価の手引き」 令和4年3月 神奈川県教育委員会

知：知識・技能　※職業教育を主とする専門学科においては「知識・技術」　思：思考・判断・表現　態：主体的に学習に取り組む態度

単元（題材）の中で「記録に残す評価」を実施する機会

「単元（題材）の指導と評価の計画」では、「記録に残す評価」（4章－1）を実施する場面を「○」で示します。「記録に残す評価」は、1単位時間の中に全ての観点を盛り込んで実施する必要はありません。授業の展開によっては、「記録に残す評価」を行わない時間もあり得ます。単元（題材）を計画する際には、評価場面は、1単元（題材）の中で、バランス良く（各観点につき必ず一回以上）設定しましょう。

→4 章 - 1 · 2、參考資料 - 2